（様式１－１）

令和５年度　学校評価報告書

大牟田市立手鎌小学校（ＮＯ１）

学校教育目標	知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成	重点目標	めあてを持って主体的・対話的な学びに向かう子供の育成

	評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画
	重点目標	目標達成のための方策（取組指標）	成果指標	評価	結果（成果○と課題△）	評価	コメント		次年度における改善策（案）
重点目標に関する評価	確かな学力 （知） 生き生きと学ぶ子供	○学習過程の中に、ICTを活用した導入の工夫や考えを交流する工夫を行い、学びに向かう力を高め、主体的・継続的な学習の充実を図る。	○課題解決のための意欲を高めるための工夫を行っている【教師：授業チェックリスト②】→３．５以上（４段階評価）	3	○校内研究としてＩＣＴを位置付けた学習過程の工夫に取り組んでいる。ＩＣＴの活用は、意欲を高める手立てとして有効である。 ○学習のまとめと振り返りを位置付け、児童が達成感を実感できるようにしている。 ○交流活動にＩＣＴを意図的に活用することにより、コミュニケーションのツールとして自分の考えを表現し、友達の考えと比べることができた。 ○プレテストや小テストなどを日常的に繰り返し行うことができた。 △問題文の意味を正確に理解できるように指導することができなかった。 △学習のルール10か条については、学年や学級により取組の差がある。共通実践として、全学級が同様に取り組む必要がある。評価を掲示したことは、意欲につながった。 △各家庭で子供への関わりの差が激しいため今以上に家庭との連携が必要である。	A	・全てのクラスでＩＣＴの活用が定着しており、タブレットを使った学習に意欲のある子供が多かった。今後も継続、発展させてほしい。 ・ＩＣＴを活用した授業で、生き生きとした子供の様子が見られた。授業がとても工夫されていた。 ・支援員の先生がついているのは、子供に対して配慮がされており良いと思う。 ・「読む」「読み取る」力の育成は、ＩＣＴの活用と両立させる必要がある。 ・保護者に対しても、端末機の管理やネットの危険生について、理解、協力が不可欠である。 ・保護者と教員が、普段から交流する時間を増やすことが必要である。 ・家庭学習は、小中連携して発信する。	・ＩＣＴの活用は、児童の意欲を継続させることやコミュニケーションのツールとして有効である。今後も、継続して活用していく。また、学習過程のどこにＩＣＴを位置付けるとより有効な活用ができるか、校内研究を中心に明らかにしていく。 ・問題文の意味を正確に読み取ることができるようにするために、図書館教育の充実を図り語彙力を高めるとともに、長文の要点を捉える力を高める取組を手鎌っ子タイムで行う。 ・学習のルール10か条を徹底するため学級や学年で重点を決め、児童評価と教師評価の振り返りを必ず行う。 ・基礎基本の充実のため手鎌っ子タイムでタブレットドリルに取り組む。 ・家庭学習強調週間の取組を充実させるため、取組結果を公表する。
		○自分の考えが見えるように表現し、説明に生かしたり、友達の考えを取り入れたりする。	○課題解決の達成感を実感させるための工夫を行っている【教師：授業チェックリスト⑤】→３．０以上（４段階評価）	3		A			
			○自分の考えを作ったり、友だちの考えと比べたりして、自分の考えをよりよいものにすることができた【児童：授業チェックリスト④】→３．５以上（４段階評価）	3		A			
		○習熟度別少人数学習等、学力低位層への指導の工夫によるわかる授業づくりに努める。 〈算数科を中心に〉	○国語・算数の勉強が好きという児童【教育活動評価】【学力向上プラン視点③】→８０％	3		A			
		○学習のルール１０か条を活用した学習の仕方・学習規律の指導を徹底する。	○ルールが定着している児童【児童アンケート】→８０％	3		A			
		○家庭と連携した家庭学習の指導の徹底を図る。 ・家庭学習強調週間の年３回の実施 （目標時間：低３０分、中４５分、高６０分）	○家庭学習の目標時間が達成できた児童【教育活動評価】→９０％	2		A			
	豊かな心 （徳） 思いやりを持った子供	○道徳の授業において、心の変容や葛藤を表出したり考えを交流したりする話合いを位置付け、自他共に大切にする心の育成を図る。	○道徳の授業において、話合いを通して考えを書いている児童【教育活動評価】→８０％	3	○道徳の時間においても、ＩＣＴを活用することで、心の動きを言葉や絵図で表現しやすくなり、話合いが活発になった。 △道徳の時間に、いかに自分事として内容を捉え、実践に結びつかせるかが課題である。 △言葉づかいや挨拶、廊下歩行等の基本的な生活習慣の徹底は、学級間格差が大きい。 ○多くの学級が、学級活動の話合いをもとに学級遊びの取組を行っている。自主的な活動として定着させることが必要である。 △生活目標を意識させることが不十分であった。だまって掃除に関しては、重点的に取組を行い、掃除の始まりと終わりに児童を集め、振り返りと評価をしている。 ○行事が以前のように戻りつつある中で、地域の方々のご協力のもと、地域資産を活用した学習を進めることができており、児童の意欲を高めることにつながっている。	A	・特に、挨拶運動には、先生方が熱心に取り組まれている。今後も、地域や関係機関との連携を強化して、様々な子供の成長につながる体験や活動の場を増やしてほしい。 ・話合いの時間を多く取り、自発的に目標に取り組んでほしい。 ・「ほめる」「認める」教育の推進。 ・先生方が、子供一人一人を尊重して声かけを行っている。子供たちはよく挨拶し、話もよく聞いている。 ・いろいろな体験や経験を通して、人との関わり方を学び自分自身を見つめてほしい。 ・校外でも丁寧な言葉で話している児童が多い。「地域の子供は地域で育てる」ということを学校と協力して活動していきたい。	・道徳の時間では、道徳的価値を捉えさせ、実践力を身につけさせる必要がある。そのために、学校や家庭での生活と資料の内容を結びつけ、自分事として考える学習に取り組む必要がある。 ・計画委員会が、定期的に挨拶運動に取り組み、挨拶に対する意識が高まってきている。今後は、挨拶の仕方に目を向け、気持ちの良い挨拶ができるように取り組ませたい。 ・生活目標を意識した取組とするために、現在行っている全校朝会での取組を改善する。特に、細かな評価を児童に返すことができるようなサイクルを計画する。 ・地域の皆様のご協力のもと、地域を愛する児童を育てていく。
		○易しい言葉遣いの徹底を図る。（「ぽかぽか言葉」の推進）	○ぽかぽか言葉をつかう児童【教育活動評価】→８０％	3		A			
		○挨拶の徹底を図る。（挨拶運動との関連）	○挨拶が定着している児童【教育活動評価】→８０％	3		A			
		○学級遊びを奨励し、児童同士が自主的・自発的に関わりをもつための学級活動を充実する。	○月２回学級遊びの実施【教育活動評価】→８０％	2		A			
		○生活目標の指導の徹底を図るため、全校朝会において、児童が生活目標の取組を発表するとともに、学級において、担任が取組の徹底を指導する。	○正しい廊下歩行をする児童【教育活動評価】→８０％	2		A			
			○だまって掃除をする児童【教育活動評価】→８０％	2		A			
		○意図的・計画的に地域資産（ひと・もの・こと）を活用した活動を位置付けることにより、相手のことを考えたコミュニケーション力や表現力を身に付けさせる。	○学校外の地域資産（ひと・もの・こと）を活用した学習の実施【教育活動評価】→９０％	3		A			
	健やかな身体 （体） たくましく行動する子供	○運動が苦手な子どもも楽しく取り組むことができるように、興味関心を高め主体的な学びを生み出す場の工夫を図る。	○運動が「好き」「やや好き」を合わせた児童【教育活動評価：体力向上プラン】→９０％	3	○朝の体力アップ運動や持久走大会に向けた業間走の取組、長縄の取組、短縄のなわとび検定の取組等により、体力向上に取り組むことができた。 △各学級で、全員遊びを取り入れながら、外遊びの奨励をしてきた。しかし、外遊びをする子としない子の差が大きい。 △ゲームやスマートフォンの影響により、夜遅くまで起きているため、早起きができない、生活のリズムが整わない児童が複数いる。朝ご飯を食べていない児童も数人いる。 ○学級活動では、栄養教諭と連携した学習活動を行った。また、総合的な学習の時間で、系等的な食育に取り組んでいる。	A	・コロナ禍で子供の運動離れが進む中で、体育授業を充実させるため指導方法の工夫に努めておられ、児童のやる気を促す取組をされている。 ・学校での指導は、十分高い評価ができる。家庭生活での指導は、家庭の状況を鑑みると、これ以上の結果を求めることは難しいかもしれない。 ・基本的な生活を整えることが大切である。それがベースとなって学びや遊びの意欲につながる。 ・食育の学習はとてもよいと思う。食事に対する感謝の心が育つ。 ・環境に合わせた目標に変更されていてよい。	・体育部を中心として、これまでの取組については来年度も継続して行う。実施方法については、児童がより意欲的に取り組むことができるように改善を行う。 ・夏は危険な暑さになることがあり、外遊びの奨励については、時期を考え重点的に取り組む時期をしぼって行う必要がある。 ・ＰＴＡ活動の一環として早寝・早起き・朝ご飯に取り組んでもらっている。今後も、様々な機会を捉えて啓発を行っていく。 ・専門的な栄養教諭を生かす機会を継続していく。
		○週１回の体力アップタイムを実施する。	○週１回の実施【教育活動評価】→８０％	4		A			
		○休み時間の外遊びを奨励する。	○休み時間に週３日以上外遊びをする児童【教育活動評価：体力向上プラン】→９０％	2		A			
		○基本的な生活習慣の定着のため、早寝・早起き・朝ご飯の取組を家庭と連携して行い、その結果を学校便りでお知らせする。また、個別に懇談会等で話し、家庭と一緒に改善を図る。	○早寝・早起きが定着している児童【教育活動評価】→８０％	2		A			
			○朝ご飯が定着している児童【教育活動評価】→９０％	3		A			
		○食育を推進する。 ・各学年で作物を育てる･食べる体験を通して	○食に関する学習の実施【教育活動評価】→学期１回以上	3		A			
いじめ防止	いじめ防止 いじめを「しない,させない,許さない」子ども	○毎月のいじめアンケートと聞き取りを行い、結果を報告する。また、毎月の教師用チェックリストを実施する。	○アンケートに基づく聞き取りや教育相談の実施、認知したいじめの４ヶ月以内の解消【教育活動評価】　→１００％	4	○チェックリストやアンケートをとった後は校長、教頭、教務が目を通し、担任に聞き取りを指示し、早期対応に努めている。現在、いじめが継続している事案はない。今後は、その後の経過を今以上に丁寧に見ていく。	A	・アンケートやチェックリストの項目内容が、いじめ防止につながる内容であってほしい。 ・教育相談で、子供たちの様子や話を聞いて学校と共有できるのは、いじめ防止にとても効果がある。		・担任だけでなく、多くの職員の目で見ること、情報を手に入れること、アンケートやチェックリストを行うことを今後も継続する。早期発見、早期対応に努め、組織として対応するようにする。
		○家庭、地域との連携を図る。 ・主任児童委員による教育相談日の実施 ・家庭用チェックリストの配布	○チェックリストの記述への対応【教育活動評価】→１００％	4		A			
不登校防止	不登校防止 元気に登校してくる子ども	○福岡アクション３を実践する。 ・家庭訪問の機会を随時設け、教職員､保護者、関係機関等の連携を図る。	○学校に行くのを毎日楽しみにしている児童【学校生活アンケート㉘】→３．０以上（４段階評価）	3	○不登校未然防止のため、随時、家庭訪問を行っている。また、不登校の児童や保護者と連絡を取ることが難しい家庭には、児童相談所、SSW、子ども家庭課等、様々な機関と連携しながら取組を行っている。 △全く登校ができていない児童が数名いる。	A	・不登校対応には、熱心に取り組まれてある。担任のサポートが不可欠。 ・大変だと思うが、チームとしての取組をがんばってほしい。 ・学校、地域がともに情報共有しながら、今以上に連携することが大切。		・不登校児童に対しては、担任だけでなく、担任外の職員も積極的に関わり家庭訪問を行う。 ・ＳＳＷ、ＳＣ、教育相談室、児童相談所等の機関と連携を取り、対応していく。
		○出欠状況の確実な把握と関係機関等との連携を強化する。	○毎日の無届け欠席・遅刻の確認、配慮が必要な児童情報共有【教育活動評価】→１００％	4		A			
働き方改革	働き方改革 意識改革と業務改善	○週１回のノー会議デー及び定時退校日の設定（毎週水曜日）、学校閉庁時刻（２０時）での退校を意識付ける。	○昨年度同月比超過勤務時間→10%削減	2	△昨年度比10%削減は実施できていない職員が多い。学校閉庁時刻を過ぎても、数名が学校に残っている。	A	・先生方の健康面に、特に留意いただきたい。 ・強制的に取り組む必要があるかも。		・学校で対策できることについて、業務削減に取り組むとともに、職員の超過勤務削減の意識を高める。

◇評価について　・【自己評価】　４：目標達成（９０％以上）　３：ほぼ達成（７０％～９０％）　２：もう少し（６０％～７０％）　１：できていない（６０％未満）

・【学校関係者評価】　Ａ：自己評価は適切である　Ｂ：自己評価は上方修正すべきである　Ｃ：自己評価は下方修正すべきである